

# 町田市地域活動サポートオフィス事業報告書

## 1 2022年度概括

- ・新たに地域で活動する団体・個人がつながり、活動の幅を広げるための場として「まちカフェ！オープンデー」を5月から月1回、町田市役所市民協働おうえんルームで開催。市役所会場という利点を活かし行政各課とのコーディネートやまちカフェ！参加団体の打ち合わせの場としての活用を促進したことで協働事業のきっかけづくりができた。また、オープンデーにあわせて各種講座を開催。講座では、知識の提供だけでなく、ワークや実技などを取り入れ参加者同士の連携・協働も促進した。
- ・市内で活動する団体・個人がその経験や知見を共有し、地域で横展開する場としてトークセッション「みんなの経験共有会」を月1回開催した。その内容をホームページのコンテンツとしてまとめ、公開した。活動団体が共通して関心を持つテーマ「法人化」、「協働」、「学生との協働」、「オンライン導入」などについて知見の共有や蓄積を進めることができた。
- ・まちだづくりサロン特別編「『協力』のテクノロジー～違うを大切に協力できる地域をつくる～」を開催した。満足度を5段階評価で聞いたところ5が68.9%、4が27.5%となった。参加者は、地域活動団体、市役所職員、自治会町内会役員、企業など多様で、関心の高さが確認できた。協力のテクノロジーについては、「実践編」を期待する声もあり次年度以降検討したい。
- ・連続講座「まちだづくりカレッジ」は、これまでの内容を継続した「ベーシックコース」に加え、新たにカレッジ卒業生に限定して個別コンサルテーションによる「アドバンスコース」を開設。新設した講座では、過去に参加した団体のフォローアップを行い、事業継続に向けての課題整理を実施した。
- ・第16回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」は、3年ぶりに市役所会場にて実施。実行委員会やまちカフェ！オープンデーを活用して団体同士のマッチングを行い、期間中19件の協働事業が実施された。
- ・事業についての相談があった団体に新しい事業をまちカフェ！で実施するよう提案を行った。これにより、相談、支援、まちカフェ！での事業実施、振り返りというサイクルを通して、効果的に団体をスキルアップさせることができた。

- ・学生おうえん隊は、18名の学生が9団体で活動した。また、新たに少しの時間から参加可能な「ワンデイおうえん隊」（チラシ封入、設営、取材、当日案内など）というボランティアプログラムを実施し、13名の申し込みがあった。初めてボランティアに参加したという方の参加があり、担い手を拡充することができた。
- ・中期の事業計画を策定した。あわせて市民協働推進課と経営についても協議し4年間の方向性を定めた。

## 2 活動日数

2022年4月1日～2023年3月31日（12ヵ月、242営業日）

## 3 事業報告

### (1) 地域活動に関するコーディネート事業

#### ア 相談対応【実施目標 年間100件程度→年間208件】

相談・来訪 208件（2021年度156件）

内訳（複数選択可）

事業相談94件、意見交換／情報交換70件、助成金相談／資金獲得13件、WS等開催支援6件、設立相談7件、情報発信2件、社会貢献4件、その他18件

- ・他法人（高齢者支援センター、社会福祉協議会、文化・国際交流財団等）と連携した相談対応をするケースが増えたことにより、課題解決の質が高まった。
- ・「ショッパー」町田に「個人でも団体でも市内で活動したい人を応援」という記事が掲載されたことにより、個人からの相談が増加した。個人の方をまちカフェ！ボランティアのおうえん隊や地域活動団体につなぐことで地域活動の担い手の広がりにつながった。

#### イ 地域イベント等への参加 【目標年10回→19回】

2021年度に引き続き、「わらしべワークプロジェクト」「8050地域情報交換会」

「まちだハッピーマルシェ」に参加した。各事業ともに、運営の中核を徐々に参加団体に移管した。

1	まちだハッピーマルシェ	13回
2	学生活動報告会「ガクマチ EXPO」（運営協力とは別に参加）	1回
3	わらしべワークプロジェクト関連	4回
4	8050 地域情報交換会	5回
5	玉川学園地区社会福祉協議会勉強会	1回
6	小山田桜台地域交流スペース開所式	1回
7	コロナ困りごと相談会@まちだ関連事業	3回
8	町田市みどり活用に向けた意見交換会関連事業	5回
9	まちだをつなげる30人	8回

10	つるかわ子どもこもんず Presents★ハイブリッドトークセッション	1回
11	学校支援ボランティアコーディネーターミーティング	1回
12	多摩八市 市民活動情報連絡会(八市協議会)	2回
13	まちだ青城祭「100本の竹灯りと光のアート」	1回
14	労働者協同組合法法制化記念フォーラム	1回
15	交通安全ミーティング	1回
16	まちだの農と市民をつなぐ「まちだベジハブ」意見交換会	1回
17	町田 BBS 会設立総会	1回
18	SDGs フェスタまちだ	1回
19	第17回 JYC フォーラム「全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京三多摩」～JYC さんたまフリンジ 2023	1回

上記のほかに、地区別懇談会（10地区）、地区ミーティング第3回（10地区）に参加し、各地区の状況把握に努めた。

#### ウ 行政と市民等の協働の推進【目標年1件→2件】

- ・町田市市民生活安全課の委託事業「防犯・交通安全プラス ON 事業」を実施し、市内団体と市民生活安全課の協働による事業を17件開催した。
- ・公園緑地課主催の「ずしまちいち」実行委員会に参加し、市内団体の参加のコーディネート及び告知物の作成等を行った。

#### (2) 地域活動に関する情報収集及び発信事業

##### ア 広報誌の作成

【実施目標：発行年10回／毎号1,500部→年10回／各1,500部】

＜サポートオフィス通信概要＞

発行回数：10回発行（27号～36号）

体 裁：A4、4ページ

発行部数：各1,500部

配布箇所：各号約250カ所へ配布

発行時期の主力事業や団体活性化に役立つ情報について特集を組み、サポートオフィスの事業の周知と成果報告を目的として発行した。

<各号内容>

発行号	主な掲載内容
27号	2022年度の講座・セミナーのご案内
28号	まちだづくりカレッジから学ぶ、団体運営の2つのキーワード
29号	第16回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」実行委員会、始動！
30号	行政との協働のコツ
31号	みんなの想いをカタチにする ファシリテーションのコツ
32号	学生に聞いてみた！若い世代×地域活動の本音とリアル
33号	まちだづくりカレッジ最終回～団体活動を活性化させる未来志向の事業計画～
34号	協働プロジェクト初めの一步
35号	団体の強みを生かした 助成金申請書作成のポイント
36号	あなたの「やってみたい」を「やってみよう！」に変える 地域活動の醍醐味や進め方のコツ

イ ホームページの運営及びSNS等を活用した情報発信

<ホームページ> 掲載総数：106

イベント告知記事	イベント等実施報告	団体訪問レポート	コラム	ニュース	その他
31	53	2	2	18	0

<SNS>

Facebook フォロワー1,627件（前年度比 259件増）

Twitter フォロー1,004件（前年度比 166件増）

Instagram フォロワー1,009件（前年度比 207件増）

メルマガ：サポートオフィス通信発行、講座案内等を中心に発行 年15回発行

- ▶サポートオフィス通信：NPO／市民活動団体といったサポートオフィスが最も重視する対象への知見と情報の提供を目的とした広報
  - ・講座開催のアンケートでサポートオフィス通信の発送希望を聞き取り、直接情報を届ける対象を増やした。
  - ・各号において活動団体の実務に直接活かせるテーマを特集したことにより、手元において参照したい内容であるという感想が寄せられた。
- ▶ホームページ：情報のストックを目的とした広報
  - ・本年度新たに開始した講座「みんなの経験共有会」については、当日の内容を記事にして公開。町田市内で活動する団体・個人の経験を体系化した知としてストックすることができた。
- ▶SNS：情報の拡散を目的とした広報
  - ・これまで発信頻度が少なかった Instagram は、Facebook と連動して更新することで更新頻度をあげた。30代子育て世代を中心に Instagram 経由でイベントに参加する人が増えるなど効果が確認できた。

<その他>

- ・「まちカフェ！」ホームページの見直し

イベントの検索性を高めることを意識してイベントページを作成。特に事前予約が必要なイベントについては、イベントチラシからのリンク先として「事前予約が必要なイベント」ページを作成し、団体のイベントの集客につなげた。サポートオフィスのホームページのトップページからまちカフェ！専用HPにリンクできるようバナーを設置し、まちカフェ！サイトへの流入数を増やす工夫を行った。

(3) 地域活動を行う組織の基盤強化及び人材育成事業

ア 講座の実施【目標17回開催 →実績28回開催】

—開催数内訳—

- ① 団体の事業計画を策定する伴走型連続講座まちだづくりカレッジ5回

【実績：全5回×1回（ベーシック/アドバンス）成果：計画策定3団体・アドバンス2団体】

ベーシック	アドバンス
1回目 組織基盤のセルフチェック・カレッジ概要説明・同窓会	
2回目 ビジョン・ミッションの策定/ターゲット・ステークホルダーの検討	2回目 個別コンサルティング システムコーチング

3回目 ターゲット・ステークホルダーの検討	3回目 個別コンサルティング システムコーチング
4回目 事業計画の策定	4回目 個別コンサルティング システムコーチング
5回目 最終報告会 事業計画の発表	

② みんなの経験共有会 【実績：10回開催】

町田市内で活動する団体・個人の経験を共有することを目的として開催。各回3～4名の登壇者と対話形式で実施した。すべて記事としてまとめサポートオフィスのホームページに掲載し、町田市内で活動する団体・個人の経験を体系化した知としてストックすることができた。

vol.1 法人を設立してみた「NPO法人・一般社団法人設立経験共有会」
vol.2 協働事業やってみた！「協働事業に取り組んだ経験共有会」
vol.3 学生と一緒に活動してみた！「学生との協働事業に取り組んだ経験共有会」
vol.4 オンラインイベントやってみた！「オンラインイベントのコツ経験共有会」
vol.5 助成金にチャレンジしてみた！「助成金の活用経験共有会」
vol.6 マルシェやってみた！「マルシェ開催の経験共有会」
vol.7 まちカフェ！でチャレンジしてみた「まちカフェ！経験共有会」
vol.8 仲間と一緒に仕事をおこしてみた！「労働者協同組合 経験共有会」プチ講座を合わせて開催
vol.9 事務局やってみた！「地域活動をスムーズに進めるためのコツ 経験共有会」
vol.10 まちチャレやってみた！「市民提案型事業 講座づくり★まちチャレ経験共有会」

③ その他 13回

- ・みんなの想いをカタチにする技術 ファシリテーション講座 1回
- ・まちだづくりサロン特別編シンポジウム「『協力』のテクノロジー～違うを大切に協力できる地域をつくる～」 1回
- ・公益財団法人トヨタ財団助成 公募説明会&応募相談会、WAM助成応募説明・相談会、はじめてのZoom講座／Zoom主催者講座、市役所との協働のコツ講座、団体の魅力を伝える広報講座、参加したくなるイベントチラシを作ろう講座、動画作成講座、スマホ撮影プチ講座、LINE公式アカウント開設講座

- ・「みんなの経験共有会」は新たな講座としてプログラム（登壇者3, 4名、対話形式、開催後HP掲載）を確立することができた。ちらし、ホームページなどの広報物も固定化することで開催にかかる工数を下げて、継続実施できる仕組みをつくった。また、内容に応じて他組織（町田市文化・国際交流財団、町田市生涯学習センター、まちカフェ！実行委員会）との共催企画として実施し、内容の充実をめざした。登壇者も地域活動団体だけでなく、行政職員にも登壇してもらい組織を越えた連携を促進した。また、横浜市神奈川区からも「経験共有会」の開催依頼が来るといった波及効果もあった。
- ・団体の事業計画をつくる伴走型連続講座「まちだづくりカレッジ」は、これまでの内容を継続した「ベーシックコース」に加え、新たにカレッジ卒業生に限定して個別コンサルテーションによる「アドバンスコース」を開設。新設した講座では、過去に参加した団体のフォローアップを行い、事業継続に向けての課題整理を実施した。
- ・2020年度、2021年度は、オンラインの連続講座として実施したファシリテーション講座を対面で実施した。町田市立中央図書館協力のもと「ファシリテーション」に関する書籍のブックフェアを開催することで、参加者の主体的な学びを促進した。
- ・本年度から月1回町田市役所市民協働おうえんルームにて「まちカフェ！オープンデー」を開催。オープンデーにあわせて各種スキルアップ講座を開催した。特にまちカフェ！に向けて広報や情報発信に関するテーマを取り上げて実施し、学びが実践につながるようにした。サポートオフィスのスタッフや市民協働推進課の職員のみならず、市内で活動する方に講師として登壇していただき、登壇した方の活動の活性化にもつながった。

## イ 市民協働フェスティバル「まちカフェ！」事務局業務

【成果：参加団体の54%が「成果有（変化があった）」と回答、協働事業19事例実施】

### <会議開催>

準備会1回、実行委員会3回、アワード交流会1回

### <情報発信>

ホームページ：イベント情報、参加団体情報、実行委員会開催レポート掲載

SNS：Facebook フォロワー 300件、Twitter フォロワー 157件、

Instagram フォロワー 110件

メルマガ：実行委員会案内、報告等の内容を中心に発行 年27回発行

### <本番>

オンライン及び市内各地の会場での分散開催で「まちカフェ！」を実施。

日程：2022年11月26日（土）～12月4日（日）

会場：町田市役所・市内各地の会場・オンライン

主催：まちカフェ！実行委員会（参加団体とボランティアで構成）

共 催：町田市市民部市民協働推進課

テーマ：仲間とつくる新たな未来 ～エールをつなごう心のブレンド～

<おうえん隊（まちカフェ！ボランティア）>

【実績：学生おうえん隊受け入れ団体8団体、学生おうえん隊19名/

ワンデイおうえん隊13名】

- ・学生おうえん隊の参加学生の67%は、「NPOや市民活動という言葉は知っていたが、存在や活動については知らなかった」と回答しており、今回の学生おうえん隊がこれまで活動をしていなかった学生の参加のきっかけとなっていることが明らかとなった。
- ・新たに数時間～1日だけでも参加できるボランティアとして「ワンデイおうえん隊」という取り組みを実施し13名が参加した。内容は、チラシの封入作業、前日設営、当日会場案内、イベント取材。初めてボランティアに参加したというシニア2名、高校生1名、育休中の男性など新たな層と地域活動をつなぐきっかけとなった。

#### (4) 地域活動に関する調査研究事業

ア 市内で活動する団体に対する調査

市内活動団体ヒアリング 【目標10団体→実績11団体】

「サポートオフィス通信」NPOアンケート（18法人回答/180法人配布 \*3月31日時点）

<ヒアリング>

- ・「まちカフェ！」参加団体11団体に対してオンラインヒアリングを実施。
- ・「まちカフェ！」を通じて得た「協働のコツ」「まちカフェ！への提案」等を報告書としてまとめた。2023年度まちカフェ！の改善につなげる。ヒアリング回答には、視覚障がい者に対する情報発信についての回答もあったので、ホームページ、SNSに掲載する写真に「代替テキスト」を入力する、Googleフォーム送信時の記載方法の改善など、サポートオフィス全体の情報発信改善にもつなげた。

<アンケート>

- ・団体として伸ばしたい知識や能力は下記が多い結果となった。
  - ① 情報発信等広報の能力、②NPO関連の諸制度の知識、③資金調達の能力・会計・経理・労務の知識・組織マネジメントの能力・参加者協働のためのコーディネーション能力
- ・自由記述では、オンラインの活用方法、学生との協働についてのサポートを希望する記述が比較的多かった。
- ・情報発信の講座は引き続き定期的で開催していく。あわせて諸制度についてホームページで紹介するなど工夫していきたい。
- ・記述内容を参考にサポートオフィス通信のテーマ（オンライン会議開催方法）、講座の内容の検討につなげることとする。

イ 市外中間支援組織へのヒアリング

【目標 5 回→実績 5 回】

ヒアリング先	場所	ヒアリング内容
多摩 8 市地域情報交換会	調布市市民活動支援センター活動スペース 「はばたき」	・ 中間支援組織として居場所事業への支援について ・ 行政、社会福祉協議会との連携について
株式会社 STYZ (Syncable 事務局)	オンライン	・ 会費・寄付集めの支援について
多摩 8 市地域情報交換会	ひの市民活動支援センター	・ 情報発信（紙媒体、SNS、情報プラットフォーム）について ・ 市内支援組織の連携について ・ 市民協働フェスティバルの運営について
横浜市市民協働推進センター	横浜市市民協働推進センター	・ 協働事業をすすめる仕組みづくりについて
一般財団法人世田谷トラストまちづくり	一般財団法人世田谷トラストまちづくり	・ 活動団体への資源提供について
世田谷コミュニティ財団		・ コミュニティ財団について

ウ 支援体制の強化に向けた調査

【目標 3 団体→実績 5 団体(行政：3 課、大学 1 法人、企業他 1 件(会議参加・3 1 法人))】

- ・ 行政、大学、企業等の市民活動や市民協働に関する関心について会議参加やヒアリングを通じて把握した。
- ・ 地域活動を支える資源の開拓に関する取り組みの一環として、活動団体がイベント等で使える場所として「町田市内にあるレンタル施設・スペース」について調査し、町田市市民協働フェスティバルで発行している「まちカフェ！協働ガイドブック」で「地域活動団体にイチ押し！～町田市内にあるレンタル施設・スペース」という特集記事として掲載した。あわせてサポートオフィスホームページに掲載し、随時更新していくこととした。

行政 公園緑地課、土地利用調整課、農業振興課が実施する市内団体が参加する会議に参加し事業の把握に努めた。

大学 昭和薬科大学と学生の地域のコーディネートについて意見交換を実施。特に地域活動が単位になる、地域活動や市民活動について学ぶ機会のある学部以外の学部でどのように地域連携を進めるかという点について課題把握に努めた。

企業他 「町田商工会議所サービス業部会」に参加し業種組合・各団体、サービス業部会役員（企業）、まちキラネット運営員会 計40名・31法人と意見交換・情報収集を行った。

#### (5) 資金調達支援事業

ア 資金調達に関する伴走支援事業 【目標5団体以上→実績12団体】

内訳：助成金公募説明会 2回開催

助成金応募支援 10団体（うち、2団体が助成金決定）

クラウドファンディング実施支援 2団体（うち、2団体が目標達成）

#### (6) 法人の運営体制の強化

- ・中期の事業計画を策定した。
- ・中期の事業計画策定にあたり市民協働推進課と経営方針について協議し、町田市市民協働推進課からの委託事業を中心にし、公益的な団体として事業運営していく方針を決定した。

#### (7) その他

町田市市民協働推進課以外からの講師依頼や事業委託についても積極的に受け、自主財源を増やすとともにサポートオフィスの認知拡大や多様な団体との関係構築を進めた。

ア 主な事業

- ・町田市市民生活安全課「防犯・交通安全プラスON事業」  
市内で活動する団体が担い手となり、市民の交通安全・防犯意識の向上を図ることを目的とした事業。エントリーした団体は、自団体の活動に「交通安全」／「防犯」に係るプログラムをプラスONして実施。市内団体等がエントリーし、サポートオフィスと共催で17件の事業を実施した。
- ・町田市市民生活安全課「20代が使いたくなる！交通安全啓発グッズプロジェクト」  
若者の現状やニーズ等を活かした交通安全啓発グッズを企画・制作する事業。サポートオフィスが参加者の募集、企画会議の運営を行った。大学1年生～社会人3年目の10人のメンバーが参加し、3回の企画会議を開催。参加した若者が企画・デザインしたグッズを制作した。

- ・農業振興課「小山田の里山環境活用の拠点づくりに関するワークショップ」  
「町田市里山環境活用保全計画」に基づき計画されている小山田エリアの里山環境を活用するための交流回遊拠点について、小山田地域の住民が参加して検討するワークショップ。全5回開催し、36名が参加。サポートオフィスは、ワークショップの企画、運営、テーブルファシリテーションを担当した。
- ・農業振興課「小山田の里山環境活用の拠点づくりに関するワークショップ」報告書冊子作製  
上記ワークショップの実施報告書冊子の制作。サポートオフィスは編集・ディレクションを担当した。
- ・社会福祉法人まちだ育成会職員研修  
ひかり療育園の建て替えを見据え、職員が新規事業を検討する研修。法人内で公募し、応募した職員20名が参加。1カ月に1度の計7回の研修を実施。サポートオフィスは、研修プログラムの企画・講師・ファシリテーションを担当した。

イ 受託事業一覧

	依頼元	内容	テーマ	担当
	謝礼あり			
1	狛江市民活動センター	講師	団体運営	喜田
2	調布市市民活動支援センター	ヒアリング	まちカフェ！学生おうえん隊	橋本
3	そらまめ	講師	SDGs	杉山
4	全国コミュニティ財団協会	審査委員	休眠預金活用のための資金分配団体の選考	喜田
5	NPO 法人アクションポート横浜	企画・運営	kintone 活用	橋本
6	NPO インターンシップラボ	企画、進行	NPO インターンシップに取り組む団体の交流会	橋本
7	法政大学多摩地域形成論	講師	キャリア、地域活動	橋本
8	さがまちコンソーシアム	講師	広報	杉山
9	NPO 法人親がめ	進行・講師	地域活動、経験共有会	喜田・橋本
10	江戸川区総合人生大学	講師	仲間づくり	喜田

11	昭和薬科大学	企画協力	お薬子育て相談カフェ 赤ちゃん親子授業	喜田
12	まちだ育成会	企画・運営・講師	まちだ育成会職員研修	喜田
13	町田市市民生活安全課	企画・運営	ベニーズイングリッシュ ワークショップ	山根
14	町田市市民生活安全課	企画、運営	防犯・交通安全プラス ON 事業	山根
15	町田市市民生活安全課	企画、運営	20代が使いたくなる！ 交通安全啓発グッズプ ロジェクト	橋本・山根
16	農業振興課	企画・運営	小山田の里山環境活用 の拠点づくりに関する ワークショップ	喜田・大谷
17	農業振興課	編集・ディレクショ ン	「小山田の里山環境活 用の拠点づくりに関する ワークショップ」報 告書冊子作製	喜田
18	町田市社会福祉協議会	委員	地域福祉活動計画推進 委員会	喜田
19	教育委員会	委員	生涯学習審議会	喜田
20	生涯学習センター	委員	運営協議会	橋本
21	足立区 NPO 活動支援センタ ー	ファシリテーショ ン、講師	ペルソナについての講 義、地域づくりワーク ショップの進行	杉山
謝礼なし				
22	横浜リハビリテーション学 園	講師	ボランティア	橋本
23	法政大学ボランティアアク ション	講師	地域活動	橋本
24	都立小川高校	講師	地域活動	橋本
25	kintone チーム応援カフェ	講師	kintone の活用	杉山・橋本
26	町田市生涯学習センター	企画	ガクマチ EXPO	橋本

27	NPO インターンシップラボ	講師	コーディネーション ×kintone で学生の NPO 活動を加速する	橋本
28	さがまちカレッジプロジェクトチーム会議	運営委員	プロジェクトチーム会議	橋本

#### 4 主たる成果

##### (1) 成果

- ・新たに開始した「まちカフェ！オープンデー」及び「みんなの経験共有会」を通じて、新たな団体からの相談も増加した結果、活性化した団体は42となった。活性化の要素として多い順に、新規事業実施、団体間マッチング、情報発信改善、資金調達、事業計画等策定が挙げられる。
- ・アウトリーチを強化した結果市民活動団体以外に社会福祉法人等への支援など支援先が広がった。
- ・今年度から町田市市民生活安全課からの受託で実施した「防犯・交通安全+ON事業」をきっかけとして新たな団体との関係構築につながった。

以上